

# 環境・気候変動分野の成果



## G8ハイリゲダム・サミットの成果

- ① 2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を少なくとも半減することを真剣に検討
- ② 主要排出国を含む包括的な2013年以降の合意達成に向け、COP13への参加を呼びかけ
- ③ 主要排出国間の会合(MEM)を2007年後半に主催するとの米国の申し出を歓迎

## G8北海道洞爺湖サミットの主な成果



	G8	MEM (主要経済国会合) (G8+中、印、南ア、ブラジル、メキシコ、インドネシア、豪、韓)
長期目標	2050年までに世界全体の排出量を少なくとも50%削減するとの目標を、気候変動枠組条約の全締約国と共有し、同条約の下での交渉において検討し採択することを求める	排出量削減の世界全体の長期目標を含む長期協力行動のためのビジョンの共有を支持。気候変動枠組条約の下での交渉において、締約国が衡平原則を考慮して、世界全体の長期目標を採択することが望ましい。
中期目標	G8各国が自らの指導的役割を認識し、排出量の絶対的削減を達成するため、野心的な中期の国別総量目標を実施	先進主要経済国は、中期の国別総量目標を実施し、排出量の絶対的削減のための行動を実施。途上主要経済国は、対策をとらないシナリオの下での排出量からの離脱を達成するため、持続可能な開発の文脈で、技術・融資・キャパシティ・ビルディングに支援された国毎の適切な緩和の行動を遂行。
セクター別アプローチ	各国の排出削減目標を達成する上でとりわけ有益な手法。また、エネルギー効率を向上し温室効果ガス排出量を削減するための有用な手法となりうる。	セクター別の効率性に関する緩和情報・分析の交換等を促進。協力的セクター別アプローチ、セクター別行動の役割を検討。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○革新的技術のためのロードマップを策定する国際的イニシアティブの立ち上げ</li> <li>○気候投資基金の設立を歓迎・支持(既にG8メンバーは約60億米ドルの拠出をプレッジ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林吸収源による除去量増加の行動が温室効果ガス安定化に貢献し得ることを認識</li> <li>○途上国の適応能力強化のため共に努力</li> <li>○技術の重要な役割、飛躍的な進歩の必要性を確認</li> </ul>

# 気候変動以外の環境、水分野の成果



## G8ハイリゲンダム・サミットの成果

- ①違法伐採問題を世界の森林保護に対する最も困難な障害と認識。同問題と闘う既存のプロセスに対する継続的な支援を確認。世銀の「森林カーボンパートナーシップ基金」設立提案を歓迎。
- ②「ポツダム・イニシアティブー生物多様性2010」を認識し、2010年生物多様性目標達成のため、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する努力を強化。



## G8北海道洞爺湖サミットの主な成果

	G8としての合意
森林	森林減少・劣化に由来する排出削減(REDD)のための行動を奨励。違法伐採及び関連取引を抑制する緊急の必要性を認識し、G8森林専門家違法伐採報告書に掲げられた選択肢をフォローアップ。持続可能な森林経営を世界的に促進するため、あらゆる限りを行う。森林火災と闘うための協力強化を検討。
生物多様性	G8環境大臣会合(本年5月)で採択された「神戸・生物多様性のための行動の呼びかけ」を支持し、世界的に合意された2010年の生物多様性目標を達成するため、生物多様性の損失速度比率を顕著に減少させるための努力を増大。 温室効果ガス排出量の削減とともに生物多様性の保全及び持続可能な利用につながるコベネフィットアプローチを推進。
3R	G8環境大臣会合(本年5月)で採択された「神戸3R行動計画」を支持し、資源循環を最適化するために適切な場合には目標を設定。 プロジェクト策定と投資において3Rの観点の包含することの重要性の認識を共有。 資源の国際循環を支持。
持続可能な開発のための教育(ESD)	環境・気候変動問題においてこれまでのサミットを通じ初めて独立した項目として取り上げられた。 ESD分野におけるユネスコなどへの支援や大学を含む関連機関間の知のネットワークを通じて、ESDを促進。
水と衛生	我が国が推進する循環型水資源管理が決定的に重要との認識を共有。 エビアン・サミット(仏、2003年)で合意された水行動計画の実施に向け、努力を再活性化するとともに次回サミットにおいてG8水専門家により準備される進捗報告書に基づき、同行動計画を見直す。 アフリカ及びアジア太平洋地域の水と衛生の問題解決に焦点を当てる。

# G8北海道洞爺湖サミット —環境・気候変動分野の成果—



## 【主な論点】

- 気候変動
  - 長期目標、中期目標、セクター別アプローチ、技術、エネルギー効率、適応、資金など
- その他環境
  - 森林、生物多様性、3R、持続可能な開発のための教育(ESD)



## 《気候変動》

### 1. 長期目標

○2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を少なくとも50%削減するとの目標をUNFCCCのすべての締約国と共有し、採択することを求める。

### 2. 中期目標

○G8としての指導的役割を認識し、排出量の絶対的削減を達成するため、野心的な中期の国別総量目標を実施。  
○セクター別アプローチは排出削減目標を達成し、また技術の普及を通じエネルギー効率を向上させ、温室効果ガス排出を削減する有用な手法となりうる。

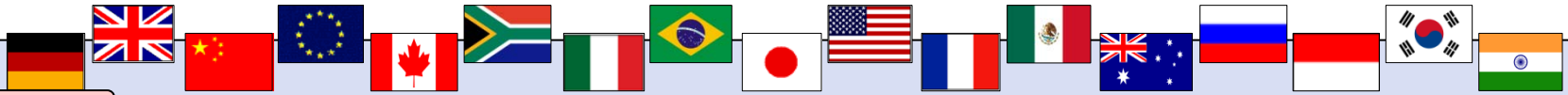
### 3. その他

- 革新的技術のロードマップ策定の国際的イニシアティブを立ち上げ。  
G8として、環境及びクリーン・エネルギー技術の研究開発に今後数年間で毎年100億米ドル超をこれまでプレッジ。
- エネルギー効率目標設定の重要性を認識。「エネルギー効率に関する協力のための国際パートナーシップ(IPEEC)」設立決定を歓迎。
- 途上国の適応努力への協力を継続・強化。気候投資基金の設立を歓迎・支持、G8は既に同基金に約60億米ドルの拠出をプレッジ、他のドナーからのコミットメントを歓迎。資金的支援が実効的な2013年以降の枠組みへの途上国の積極的関与を奨励することを期待。
- WTO交渉に加え、気候変動への取り組みに直接関係する物品・サービスに関して自主的な貿易障壁の削減・撤廃を考慮すべき。低炭素排出に貢献し得る購入・投資政策や慣行等を奨励。

## 《その他環境》

○違法伐採対策等を含む森林減少対策、生物多様性の保全と持続可能な利用、3R、ESDへの取り組み。

# エネルギー安全保障と気候変動に関する 主要経済国会合(MEM)



## 1. 概要

07年5月にブッシュ米大統領が提案し、ハイリゲンダム・サミットの首脳宣言において同提案を歓迎。第1回会合は同年9月にワシントンで、第2回会合は本年1月ホノルル、第3回会合は4月パリ、第4回会合は6月ソウルで開催された。08年7月、北海道洞爺湖サミットの際に首脳会合を開催。参加国はG8諸国及び豪、韓、中、印、南ア、インドネシア、メキシコ、ブラジルの16ヶ国及びEU。09年イタリア・サミットの機会にも首脳会合を開くことが決まっている。

## 2. エネルギー安全保障と気候変動に関する主要経済国首脳会合宣言のポイント

### 【長期目標】

- 低炭素社会達成を目指した、排出量削減の世界全体の長期的目標を含む、長期協力行動のためのビジョンの共有を支持。
- 世界全体の長期目標を、条約の下での交渉で、衡平原則を考慮して、締約国が採択することが望ましいと信じる。 IPCCの野心的な複数のシナリオへの真剣な考慮を求める。

### 【中期目標】

- 更なる行動をとる。世界全体の長期目標の達成には、各々の中期目標、約束、行動が、バリ行動計画の合意結果に反映されることが必要。
- 先進主要経済国は、先進国間で比較可能な努力を反映しつつ、中期の国別総量目標を実施し、排出量の絶対的削減を達成し、更に可能な場合にはまずは可能な限り早く排出量増加を停止するための行動をとる。 途上主要経済国は、対策をとらないシナリオ(Business as Usual)の下での排出量からの離脱を達成するため、国毎の適切な緩和行動を遂行する。 右は技術、融資、キャパシティ・ビルディングに支援され可能となる。

### 【技術】

- 短期的には、既存技術の幅広い展開が緩和及び適応の両方に不可欠。
- より長期的には、革新的技術の研究、開発、実証、展開、移転が決定的に重要であり、投資や協力を強化する必要性を認識。クリーン・エネルギー研究開発等における継続的投資及び協力促進の手段としての技術ロードマップの価値に留意。

### 【早期に実施すべきこと】

- セクター別の緩和関連技術協力の戦略につき協力し、セクター別の効率性に関する緩和の情報及び分析の交換等を促進し、協力的セクター別アプローチ及びセクター別行動の役割を検討。

### 【今後】

- 2009年のコペンハーゲン気候変動会議の成功のため、建設的な協力を継続。

# 「開発・アフリカ」の成果



## G8会合（8日午後:「開発・アフリカ」(食料価格高騰問題を含む)）

### 開発総論

- MDGs達成に向けた中間年にあたり、G8として目標達成に向けた決意を表明。
- 対アフリカODAを2011年以降も増加させる必要性に言及。
- 人間の安全保障の向上、良い統治の促進、民間主導の経済成長、全員参加型のアプローチの重要性を強調。

### 保健

- 提出されたG8保健専門家報告書を歓迎。保健分野の行動原則を盛り込んだ「洞爺湖行動指針」を立ち上げ。
- G8として保健分野支援のための600億米ドル供与（ハイリゲンダム・サミットで合意）を、今後5年間で供与するとの目標に向けて取り組むことに合意。
- マラリア対策に関し、他の諸国等と協力して、2010年までに蚊帳1億張を提供することを目指すことに合意。

### アフリカ

- 第4回アフリカ開発会議(TICADIV)の重要な貢献を歓迎。
- ジンバブエ情勢につき議論が行われるとともに、アフリカが経済成長を続ける上でのガバナンスの重要性を認識共有。

### 食料価格高騰

- G8として引き続き緊急支援に取り組んでいくとともに、中長期的対応として途上国の農業生産力増強を支援。
- 輸出規制の撤廃や、既に我が国が表明したように食料備蓄の放出を呼びかけ。
- 今後の取組を進めるため、G8専門家グループを設置するとともに、G8農業大臣による会合を開催することに合意。

## アフリカ諸国首脳との拡大会合（7日昼・午後）

- アフリカ側より特に、TICADIVで発表した対アフリカ向けODA倍増、インフラ整備等の我が国のイニシアティブを評価。
- アフリカ側から、農業生産支援、気候変動対策支援への期待を表明。

## 拡大ワーキング・ランチ（9日）

- 食料価格高騰に関し、農業分野の援助、特に小規模農家を重点的に支援すべき点が強調。